

氏名（本籍）	リョウ タン 梁 丹（中華人民共和国）
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	甲第142号
学位授与年月日	2020年9月25日
学位授与の要件	広島市立大学大学院学則第36条第2項及び広島市立大学学位規程第3条第2項の規定による
学位論文題目	中国のサービス貿易構造変化についての考察
論文審査委員	主査 教授 李 在鎬 委員 教授 金谷 信子 委員 教授 高橋 広雅 委員 教授 大東和 武司（関東学院大学）

論文内容の要旨

（研究の背景と目的）

本研究は、中国のサービス貿易の構造変化と国際競争力について考察している。サービスとは無形性、同時性、消滅性などの固有の特性を有することから、非貿易財とも言われ、その概念の整理や分類法が十分整備されておらず、よってサービス貿易の実態は必ずしも十分把握されてこなかった。各国は、居住者と非居住者との越境取引の定義に基づいたIMFの定めた国際基準に依拠し、サービス貿易に関する統計をとってきた。しかし、IMFによる貿易収支統計（BOPS）には、「サービス産業」における情報収集が容易ではなく、さまざまなサービス項目に対する価格の評価が困難であるなど、さまざまな問題が指摘されている。そこで、IMFによる国際収支の算出方式が、2008年従来基準であるBPM5からBPM6へと更新する際に、サービス貿易収支の捉え方についても所有権の移転の有無という基準をより明確にするなど若干の修正が加えられた。一方でサービス貿易の定義においてWTOのGATS(General Agreement on Trade in Service: サービス貿易に関する一般協定)は、IMFとは異なる基準を採用している。すなわち、GATSではサービス貿易の範疇に、越境取引、海外での消費、自然人の移動に加え、商業拠点の設置(すなわちサービス業企業の海外子会社からの収益)を包含しているのである。このような動きから、現在においてはIMFによる国際基準にサービス企業の海外支店や海外子会社(FATS: Foreign Affiliates on Trade in Service)が売り上げた収益を補足したデータの集計方法が普及しつつある。

中国でも2008年統計制度の施行が始まり、GATSの基準が導入されつつあるものの、依然FATS統計が適用される範囲は限られており、統計の網羅性や精緻性に欠けている。梁丹氏はこのような問題を解決するため、新しい分類基準を適用し、関連統計を読み直し、中国におけるサービス貿易の構造を整理した上で、MS指数、TSC指数、RCA指数、RSCA指数等を用いて中国のサービス貿易における国際競争力について分析と評価を試みている。つまり、「BOPS+FATS」統計を用いて、中国におけるサービス貿易の発展と現状を把握し、統計、国際競争力、

構造問題などを検討し、その特徴や問題点を見出している。

なお、その結果、財の貿易と異なり、サービス貿易全般の国際競争力において中国は依然として先進国諸国やインド、韓国、タイより劣位にあることを明らかにした。個別の項目においては、生活型のサービスの比率が生産型のそれを上回っているという点、また動的には輸送などの伝統型から通信、情報サービスなどの新興型へ徐々に移行していることを明らかにした。さらに、FATS による収益が IMF の国際基準でのサービス輸出額を上回っており、中国におけるより厳密な GATS 基準の適用が重要であることを示唆している。

(構成)

本研究の構成は、以下のとおりである。

まず、序章では、本研究の背景と目的、研究方法、そして構成について述べている。

続く第 1 章では、「国際収支におけるサービス貿易の位置づけ」について述べている。その概要と変遷を検討するなかで、「モノの貿易」から「モノ貿易とサービス貿易」への変化、また「生産型」と「生活型」、「伝統型」と「新興型」など「サービス」の多面性への理解の必要性を小括としている。

第 2 章では、「サービス」に関する概念の整理を行っている。「サービス」および「サービス産業」に関するさまざまな定義や分類法、また「サービス貿易」における統計の基準・分類について検討している。

第 3 章では、WTO 加盟後急成長を遂げている中国のサービス貿易やサービス産業に関する先行研究を渉猟し、その主要な研究テーマである「貿易理論の側面からの考察」、「サービス貿易の統計制度や方法についての問題」、「GATS などの国際基準と中国の統計との比較」、「サービス貿易の構造問題」、「サービス貿易の国際競争力にかかわる考察」について検討している。

第 4 章では、世界各国におけるサービス貿易の拡大とサービス経済化について、その要因を概観した上で、国際収支統計にもとづくサービス貿易の動向を国際比較しながら、サービスが成熟化している先進国に比して後発の中国のサービス貿易における中国の課題を探っている。

第 5 章では、中国におけるサービス貿易に関する統計制度について述べている。国際収支統計 (BOP 統計)、また FATS 統計について、詳細に検討したのちに、主要国のサービス貿易にかかわる統計制度を述べ、中国におけるサービス貿易にかかわる統計制度の確立過程を述べている。中国の商務部と国家統計局が共同で作成し公表した「国際サービス貿易の統計制度」に関する統計対象、統計項目、データの収集方法について詳細に分析し、その意義について論じている。

第 6 章では、中国における産業構造の変化とサービス貿易構造を検討している。中国におけるサービス貿易の発展過程を 5 段階に分けて整理し、その段階別の構造的特徴を明らかにした上で、サービス貿易の競争力を測る各貿易指標を用いて、中国のサービスの構造問題に深くアプローチしている。とりわけ、生産型サービスと生活型サービスに峻別した考察を進めている。

第 7 章では、中国が公表した 2015 年、2016 年および 2017 年の対内・対外 FATS のデータ分析結果にもとづいて考察している。サービスは 4 つのモードに分類できるが、当該国での支店・子会社などによる商業施設の設置によるサービスは、IMF 基準にもとづく BOP 統計では捕捉できなかった。これを補足するのが FATS 統計である。中国において、対内 FATS が対外 FATS を上回っており、また規模においてサービスの越境取引の 2~3 倍で、サービス貿易にお

いて、大きな位置を占めている。サービス貿易収支統計において、サービス業に従事する多国籍企業の海外子会社の経済活動をよりの確にとらえることの重要性を示唆している。

終章では、本研究のまとめとともに、意義、特色、独創性、また本研究の限界と今後の課題について述べている。

論文審査の結果の要旨

本審査委員会は、2020年9月1日（火）、外部委員として大東和武司教授（関東学院大学）を迎え、公聴会とともに、審査委員会を開催し、以下の結論に至った。ここに、審査結果を報告する。

1 本論文の貢献と課題

- (1) グローバルデジタル時代とっていいほどの今日、技術・知識集約型サービス貿易は、国際分業や利益配分に影響を与える重要な要素である。「量的」貿易から「質的」貿易への転換を実現するためには、新しいサービス、技術・知識集約型サービス貿易が新しいエンジンとして機能していくことが求められる。
こうしたなか、中国について、これまでは、世界における最大のモノ貿易国になっている現状もあり、モノ貿易、加工貿易、製造業の対内外直接投資などの面から多くの研究を行われてきた。中国のサービス貿易、またその構造問題に絞って研究する研究者はまだまだ少なく、この点では本研究は、今後の研究への示唆を与えることにおいて大きな意義がある。また併せて、政策立案への実務的な示唆を与える点においても意義がある。
- (2) 中国のサービス貿易にかかわって、概念整理にもとづく定義の分類、関連制度、統計システムを含む各段階における発展の特徴と課題、さらにサービス業の対内外直接投資の実態や問題点を体系的に検討したので、参照価値があると考え。とくに、これまで国際収支統計（BOP 統計）しか使えず、サービス貿易の一部のみしか捉えることができなかった点を集計方法の修正にもとづく考察を行い、「BOP+FATS」統計をもちいて、中国におけるサービス貿易全体の把握し、その構造を動的に分析したことは、国際貿易研究において、先駆的なひとつの大きな貢献と評価することができる。さらに、他の国との比較等を通じて、貿易と直接投資との関係・関連について、今後の研究に有用な示唆をもたらすものであると考え。
- (3) 中国におけるサービス貿易について、多くの研究者は、主に貿易の自由化と産業の国際競争力に注目している。サービス貿易構造の視点からの研究は極めて少ない。
さらに、国際競争力を評価する際においても、本研究では、サービス貿易の多面性の視点から、これまでモノの貿易において用いられてきた貿易指標をサービス貿易に援用するには検討余地があり、限界があるとした点もひとつの貢献である。
- (4) サービス貿易の多面性にかかわって、本研究では、生産型サービスと生活型サービス、あるいは伝統型サービスと新興型サービスに分けて考察している。これまでの国際貿易研究ではほとんど着目されていなかった点であり、ひとつの大きな貢献といえる。また、この視点は、当該国の産業構造の高度化をはかるために、政策的にも有用な示唆を与えるものと考えられる。

本論文には、他方で、いくつかの課題もみられる。

- (1) 本研究では、主に中国の対外サービス貿易を中心に行ったが、サービス貿易に関わっている中国国内の企業の動向・進展について十分に把握することができなかった。それを並行して行えば、とりわけ FTAS 統計との関係で、サービス貿易の把握・検討がさらに深まるものと考えられる。
- (2) 本研究においても指摘し、また中国の統計整備の観点からまだ致し方ない点であるが、統計間のデータの不一致を感じる。とくに、中国商務部が公表したデータは、国家外貨管理局による「国際収支表」のサービス貿易収支のデータとは違っている。商務部は、「制度」に基づいて計上し、中国のサービス貿易の実態を反映しているとしているが、世界主要国との国際比較においては、国家外貨管理局による「中国国際収支時間序列」のデータがより当てはまる。こうした事情によって、各大項目に含まれている小項目のデータは取得できず、正確なデータの把握には至っていない。本研究における考察においては、議論の余地を残さないようにデータの取り扱いには十分な注意を払っているが、より深い研究、正確なデータへの接近による研究成果の堅牢性の観点では今後の課題として残る。
- (3) サービス分野におけるアウトソーシングは、中国の経済成長のひとつの注目点である。本研究では、中国におけるサービスのアウトソーシングは、詳しくは検討していない。この点の考察を研究に含めていくことは、本研究をもっとさらに説得力があるものへと進めるものであり、今後の課題である。

2 結論

本論文には、以上の主たる貢献がある一方で、いくつかの課題もある。ただ、課題は、今後の研究課題となるべきものであり、本論文の学問的貢献を損なうものではなく、さらなる展開に期待をいだかせるものである。

また、審査委員会では、語句、文章の正確性、あるいはまたわかりやすさのために、いくつかの修正あるいは補強は求めた。

以上の審査結果に基づき、申請者・梁丹には、「博士（学術）広島市立大学」の学位を受ける資格があると認める。

[参考 本文 A4 x+240p. 参考文献：218]